



熊谷市立大幡中学校

校長 山田 健司

一 本校の沿革（学校紹介を含む）

昭和五十八年四月一日、熊谷市立大原中学校の通学区であった大字柿沼、原島、代、新島（大幡小学校の通学区）を分離して熊谷市立大幡中学校を設立し開校しました。市内の中では一番新しくできた中学校で、創立四十二年目となります。これまで五千七百七十二名の卒業生を輩出し、現在の生徒数は二百三十四名です。

本校生徒の強みの一つとして、あいさつがとて素晴らしく、地域の方からお褒めの言葉をいただいています。また、生徒会活動も活発で、生徒の中から募集したあいさつキャラクターの「A O H A」が活躍しています。

二 校章・校歌制定に係るエピソード

1 校章

①制定年 昭和五十八年四月十一日

②デザインの意図 熊谷市の木、銀杏の葉をデザインしています。学区内の代地区にある八幡様に、かつて、市の天然記念物指定の大イチョウがあり由緒が深いです。3枚の葉は、それぞれ、知、徳、体を表し、三方に発展する方向を示しています。「幡」「中」の文字は丸ゴシック体を用い、まるやかな人間性を象徴しています。3枚のイチョウの葉の組み合わせに「大」の字のイメージをもたせてあります。

2 校歌

①制定年 昭和五十九年二月十日

②特徴 軽快なリズムで歌いやすく、各番の歌いだしと歌い終わりの音



階が同じで、1番が歌い終わって2番に移るとき、音程が変わらずそのままの調子で歌えるところが特徴の一つであると思います。

大幡中学校校歌

増田敏雄 作詞
松本文男 作曲

$\text{♩} = 110$

み どり はるか なむーさーし の に
わーかきい のち のいーぶーくーと き た
かきほこり をむーねーに して い
ざーとも にまなばん おおはたちゅうがくわ
がーほこ う2.め う

一、緑はるかな 武蔵野に

若き生命の 息吹くとき

高き誇りを 胸にして

いざともに 学ばん

大幡中学 わが母校

二、恵み豊かな 荒川の

歴史の流れ しをびつつ

伝統築く 心意気

いざともに 鍛えん

大幡中学 わが母校

三、秩父の嶺は とこしえに

四季おりおりに 映えるなり

ここに希望の 灯をかかけ

いざともに 励まん

大幡中学 わが母校

